



第43回日本重症心身障害学会学術集会に参加して

小児科 齋藤 菜穂

9月29日・30日の二日間、仙台国際センターにて第43回日本重症心身障害学会学術集会が開催されました。天候にも恵まれ、全国から、さまざまな職種の人々が集まりました。当センターからは医師、看護師、理学療法士など総勢20名ほどが参加し、医局から5題、看護科から5題の発表がありました。

私は、看護師2名とともに「悪性腫瘍を発症した重症心身障害者に対する緩和ケアの試み 第1報～第3報」を発表させていただきました。悪性腫瘍を発症した重症心身障害の利用者について、その簡単な経過、ケアにあたって問題となったこと、統一したケアを行うために作成したスケールの紹介、それによる看護師の変化などについて報告し、たくさんの質問をいただくこともできました。

重症心身障害のある方たちは、自分で身体症状(痛み、だるさ、苦しさなど)、精神症状(不安、つらさなど)を言葉で訴えることがなかなかできません。そこで、ケアにあたるスタッフは、体の動きや、表情、発声などから症状を推測していきます。また、治療などに対する意思決定を行うことも難しいため、ご家族とともに、多職種が関わるチームとしてご本人の「最善の利益」を考えていく必要があります。

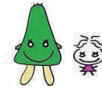
当センターでは昨年「緩和ケアチーム」を立ち上げました。今回ともに発表した緩和ケア認定看護師の荒谷、小児科の齋藤を中心に、悪性腫瘍を発症した方の身体症状の緩和はもちろんのこと、非悪性腫瘍の方の苦痛な症状の緩和のためのアドバイス、治療方針の決定における意思決定支援などを行っています。

今回の学会でも、他の施設からも緩和ケアの重要性、多職種で関わることの重要性が発表されており、利用者の方々の「よりよい人生」のため、スタッフ皆で考えていくことの必要性を切に感じました。今後も、様々な職種の専門性を生かし、利用者に関わっていきたいと思います。





第9回府中療育センター祭



指導科 目黒 由美子



10月18～25日、第9回府中療育センター祭が行われました。今回は、20日・21日に行ったイベントの様子についてお伝えします。今年は、残念ながら連日の雨で室内の開催となりました。

20日(金)は、院長先生にご挨拶を頂き、恒例のハッピーバズーカを合図に、センター祭が始まりました！今年のセンターの舞台発表も、個性豊かな発表が盛りだくさんでした。利用者や職員のパフォーマンスに笑いや歓声が聴かれ、盛り上がりはセンター内に大いに響きわたっていました♪「人生の節目を祝う会」では、還暦4名、古希7名、喜寿2名の利用者は、この日の

ために用意した衣装がとても素敵で、満面の笑みでした。

“食べ物コーナー”の目玉メニューは、センター祭初の和風スイーツ「みたらし団子」がおすすめの一品でした！美味しそうに頬張り笑みがこぼれる利用者。「ほっこり野菜」や「ゼリーパフェ」は、とても美味しく、おかわりをする人もいました。家族会のわたあめは、利用者をはじめ、大人も子どもも嬉しそうに食べていました。



地域の作業所等の出店コーナーでは、パン、ホットドック、豆腐プリン、コロッケ、雑貨などバラエティに富んだ商品が並んでいました。販売開始と同時に長い列ができて、すぐに完売するお店もあり、お店の方との会話も弾み、今年も大好評でした。

学校からの出店では、都立武蔵台学園・都立府中けやきの森学園の作品販売や都立農業高校の手作りジャムとトマトケチャップが販売され、あっという間に完売しました。

“ゲームコーナー”では、当センター内に分教室のある都立府中けやきの森学園と連携の下、ロンドンパラリンピックボッチャ日本代表選手の秋元妙美さんをお迎えし、体験ブースや病棟訪問を通して利用者との交流をしていただきました。他にも「ハロウィンカードゲーム」「さかなつり」を職員、ボランティアの方々と一緒に楽しんでいました。



“感覚刺激コーナー”では、「大相撲 府中場所」をテーマに実物大の土俵や力士手形、力士像にさわって大きさを体験したり、化粧廻しとまげをつけたりして力士気分を味わっていました。



イベント気分を盛り上げる「ネイル&タトゥ」は、アイドル写真やキティちゃんにぐでたま等がありました。頬や手の甲、腕にタトゥをつけてオシャレを楽しみ好評でした。



21日(土)2日目の舞台は、1日目に負けない盛り上がり！長年センターに来てくださっているボランティアの方々への感謝状授与の表彰式を行ないました。そして、午前の部を飾ったのは、「都庁スイングビーツ」の皆さんによる素敵なジャズの演奏でした！自然と身体が動いたり、歌ったり、その演奏に酔いしれる人もいました。午後は、全体制作「君の四股名(しこな)は…」のお披露目をしました。利用者の名前を入れたユニークな四股名の勢ぞろいでした。フィナーレは4回目となる「JULIE'S CLUB」さんによる歌とダンスのパフォーマンスでした。そのパフォーマンスは、圧巻の一言！！雨天のため病棟を分け二部制で行いましたが、会場全体が一つになる、素晴らしいパフォーマンスでした。



最後は事務長のご挨拶の後、ハッピーバズーカの合図でセンター祭は無事に幕を閉じました。

2日間とも天候には恵まれませんでしたでしたが、ボランティアの皆さんをはじめ、協力して下さった全ての皆様にご心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

センター祭 ～ 公開講座と行事食 ～

摂食・嚥下ワーキングチームは多職種で活動を行っていますが、今回のセンター祭では、正面入り口付近に体験コーナーを出店するとともに、市民公開講座を開催しました。

体験コーナーでは、とろみのないお茶と、とろみ茶の飲み比べ、咀嚼せずに食べられる高栄養食の試食をしていただきました。参加者は2日間で100名を超え、多くの方に体験していただくことができました。ブース内には今まで行った院内研修会の資料も展示しました。

また、10月20日・21日の両日、当院の渥美聡医師、鶴見田鶴子栄養科長、宮木絹子技能主任の3名が講師となり「障害児者にとって、食べやすい食形態と調理の工夫 おいしく、楽しく、安全な食事のために～」と題した市民公開講座を開催しました。嚥下(飲み込み)の障害が重い方にも食べやすい食形態、キザミ食の問題点、食べやすい嚥下調整食と調理の工夫などについて、実際の摂食時の映像や、嚥下調整食の具体的な調理方法などの映像も交えた内容に、「具体例が多く、わかりやすかった」という感想が寄せられました。また、嚥下調整食の試食もあり、「食形態が体験できて良かった。美味しかった。」という感想があり、好評でした。



なお、利用者の方々には、栄養科から次のような「センター祭の行事食」と「創作おやつ(2色ゼリー)」が提供されました。

センター祭の行事食



パン粥、鶏肉真薯(しんじょ)の紅葉あん、ブロッコリー、人参添え、かぶの柚子みそ、果物(桃)、デザート(栗のムース)

創作おやつ



2色ゼリー

全国重症心身障害児者施設職員研修会「栄養士・調理師コース」に参加して

栄養科 栗林 淳、竹内 典子



10月4日(水)～6日(金)の間、全国重症心身障害児者施設職員研修会「栄養士・調理師コース」が大阪で開催されました。当センター栄養科からは、2名が参加しました。

講演は、「一人一人の生活を 重症心身障害施設に求められること」、「食事に携わる人、すべての満足度向上のために」、「おいしい食感の解析 ～食品構造の形成と破壊～」の3演題でした。

「おいしい食感の解析 ～食品構造の形成と破壊～」は、明治大学の中村卓教授による講演でしたが、おいしい食感として「クリーミー」と感じるものは、食物を潰したとき細胞組織が細かく砕けるものであるなど、「おいしい」と感じる食感のメカニズムを実験データや顕微鏡による細胞組織の写真を交えた、興味深い内容でした。

また、各重症心身障害児者施設の事例発表は9例あり、それぞれの施設における取り組みについて発表がありました。特に西部島根医療福祉センター職員による「当センターの嚥下調整食(なめらか食)の取り組みについて」の発表は、職員の意識を高めるためにメーカー主催の嚥下調整食コンクールに挑戦し、ルーキー賞を受賞したとのことで、職員のモチベーションが上がり、職場が活気づいたという話は、参考になりました。

3日間の研修で、いろいろな施設の取り組みを知ることができ、とても有意義でした。施設の規模や職員体制に違いはあっても、利用者の方々に、より良い食事を提供するために、日々努力している姿勢は共通していました。

今回の研修で習得したことを職員に伝え、職場の活性化を図るとともに、当センターの食事の質の向上に役立てていきたいと思えます。

第21回全国重症心身障害日中活動支援協議会

通所 加藤 美佳子

平成29年10月12日(木)・13日(金)、広島で開催された第21回全国重症心身障害日中活動支援協議会に参加しました。

北海道から沖縄まで全国112の通所施設から256名の職員が参加して行われました。行政説明(在宅重症心身障害児等の支援)に続いて、講演会では『なければ創ればいい』と題して全国的に拡がりを見せている重症児デイサービスの話がありました。また、シンポジウム『重症心身障害児・者を支えるとは～姿勢について考える・姿勢から見えてくること～』では改めて姿勢の大切さ、ポジショニングの重要性を学ぶことができました。

二日目の分科会では、日中活動について他施設での様々な取り組みを伺ってきました。単発になりがちな活動をいかに工夫して継続し、楽しめる活動に展開させるのか、外出をより楽しめるようにどのような工夫をしているのか等々、とても興味深い内容でした。他施設でも同じような課題を抱えており、色々な意見を聞くことができました。これからも創意工夫しながらより良い支援を目指したいと思えます。



〒183-8553

東京都府中市武蔵台2-9-2

東京都立府中療育センター

電話 042(323)5115

Fax 042(322)6207

--*ホームページもご覧下さい*-*-*

<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/fuchuryo/index.html>

ライブラリや各科の紹介など、リニューアルしました!